



出発を前にソマリアについて話し合う（左から石坂さんと柳原さん（岡山県加茂川町役場で）

ソマリアで町職員研修

岡山・加茂川 2人、NGOに参加

内戦に苦しむ北アフリカのソマリアで自治研修を兼ねた国際貢献を——と、岡山県加茂川町が職員二人を現地に派遣することになり、十六日夕、出発する。医療活動を進めているアジア医師連絡協議会（AMDA、本部・岡山市、菅波茂代表）の医師らと行動を共にしてボランティア精神を学び、帰国後は町おこしに役立てようというプラン。自治省は「町職員がNGO（民間組織）の活動に参加するのは初めてだろう」と評価している。

派遣されるのは、町民生課長補佐の柳原富美雄さん（四三）と農業公社係長の石坂公宏さん（三三）。来月一日まで北部ソマリアと、難民の波代表と知り合ったのがきっかけ。今年一月にバングラ

ラデッシュでAMDAの活動を視察し、ソマリア研修をの三十万円を支給する。二人は十七日午後、成田視察・研修費の助成制度を空港からソマリアへ向かう

適用し、一人当たり最高額の三十万円を支給する。二人は十七日午後、成田視察・研修費の助成制度を空港からソマリアへ向かう

ボランティア精神学び町おこし

が、「NGOと地方自治体の橋渡し役をしたい」と張り切っている。片山町長は「発展途上国と過疎地の医療は取り組み方が似ている。勉強を積んで、町政にも役立てて欲しい」と期待している。AMDAは今年一月から現地で医療活動、今回、新たに医師ら二人を派遣する。菅波代表は「NGOと自治体が連携した活動は今後の国際貢献を考える上ですばらしい試み」と歓迎している。

加茂川町は吉備高原に広がる町で人口六千七百六十六人。職員が住民を訪れて地区の要望を聞く「出前サービス」など過疎化の克服に取り組んでいる。